



佐賀の森林を
守り育てていこう
君の出番だ！

フォワーダのグラップルを操作して丸太の積込を体験する高校生（伊万里有田地区森林・林業協議会による講習会の様子）

《林政だより》

- ・「さが林業アカデミー」を開講 ……………2
- ・サガスギ（知的財産）をみんなで守る ……………3
- ・待望の「さかの木の建築推進協議会」が設立！……………4
- ・令和4年度治山林道コンクールを開催 ……………5

《林業ひろば》

- ・JLCで太良町森林組合の2人が快挙！……………6
- ・武雄市朝日公民館が完成 ……………7

- ・森林・林業に関する高校生の意見発表 ……………8
- ・新しい森林調査の形……………9

《普及だより》

- ・岩松小学校5年生を対象に森林教室を開催……………10

《林試だより》

- ・“新種コバイ”によるサカキ被害 ……………11

《裏面》

- ・林務関係職員の人事異動、イベント情報 ……………12

「さが林業アカデミー」 を開講

2022 年度から新たに開講！

森林は、木材の生産をはじめ、水源のかん養や土砂の流出防止、二酸化炭素の吸収など、私たちに様々な恩恵を与えており、将来にわたって守り育てていくことが重要です。

そこで、佐賀県では、新たな取り組みとして今年度から「さが林業アカデミー」を開講し、林業に情熱を持ち、知識や技術力を備えた人材の育成を図ります。

林業で働くイメージが深まる 3 ステップ

「さが林業アカデミー」は、「知る」「触れる」「学ぶ」の3つのステップで構成されています。

まず、「知る」ステップである就業セミナーを9月と10月に開催し、県内の森林・林業の紹介や現役就業者3名とのグループトーク等を行います。佐賀会場だけでなく東京会場でも開催することから、佐賀で暮らす魅力や移住支援も紹介し、佐賀への移住も期待しています。

次に、「触れる」ステップとして体験会を11月に開催します。林業現場の見学や、チェーンソーや林業機械の操作体験などを通して、林業で働くよりリアルなイメージをつかむことができますようになります。

最後に、「学ぶ」ステップである講習会を翌2023年1月から3月にかけて、佐賀県林業試験場などで開催します。平日の25日間を予定しており、チェーンソーなどの資格取得や林業現場での実践的な研修、県内事業者との就業マッチングなどを行い、来年春から佐賀の林業現場で“即戦力”として働くことができますようになります。

この3つのステップを踏むことで、林業で働く具体的なイメージをつかみ、実践的な知識と技術を身につけた“即戦力”を育成することができるので、県内の林業就業者の確保につながるものと期待しています。

(林業課 企画振興担当 福井 遼)



さが林業アカデミー 2022年度 受講者募集

佐賀県

林業で働くイメージが湧くよう、募集チラシも工夫

Step.1 知る	林業就業セミナー		
東京会場	開催日	定員	
	2022年9/18日	10名	
佐賀会場	開催日	定員	
	10/30日	15名	
Step.2 触れる	林業体験会		
開催日	場所	定員	
11/27日	佐賀県内	10名	
Step.3 学ぶ	林業講習会		
開催時期	場所	定員	
2023年1~3月	佐賀県 林業試験場ほか	5名	

3つのステップで構成



県林業試験場が半世紀以上の歳月をかけて、ひた向きに研究し、成果が実り「成長が早く」「強度が高く」「花粉が少ない」3拍子揃った高品質な「サガンスギ」が誕生しました。今年2月より出荷が開始されたところです。

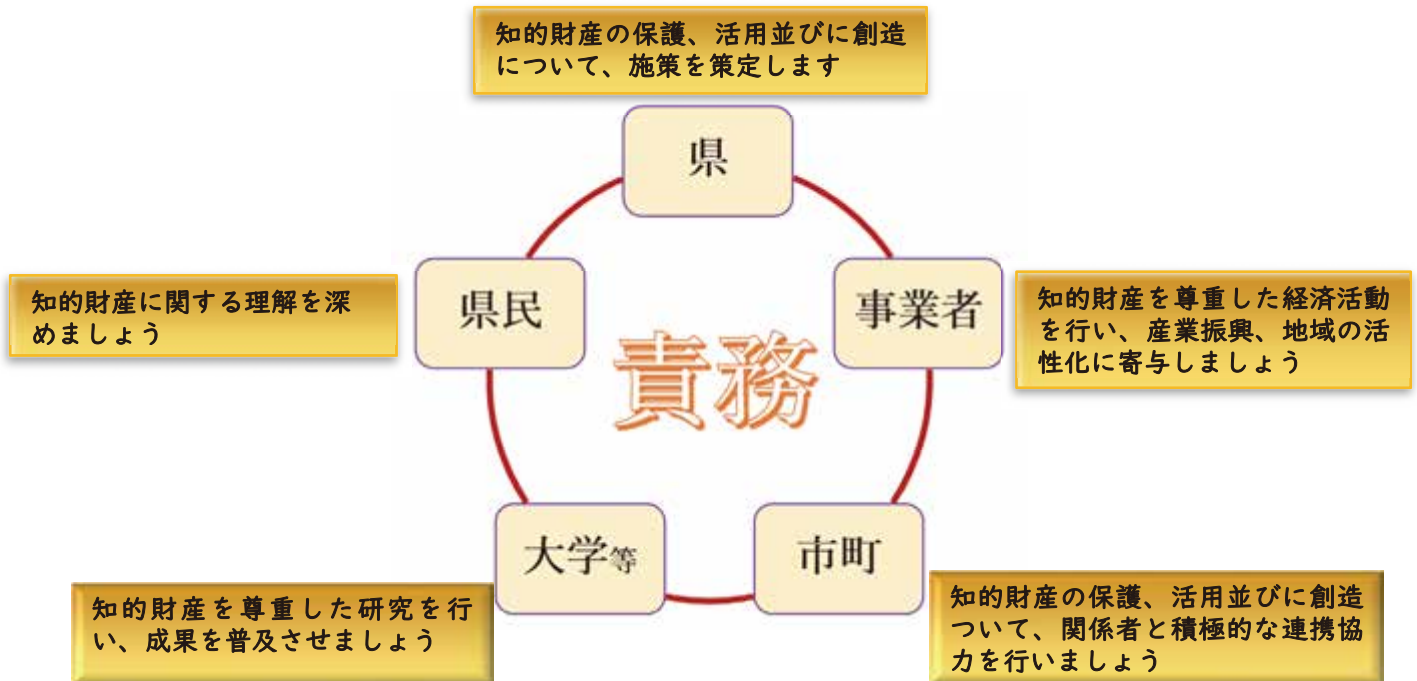
種苗を県外へ
持ち出し禁止



このような中、2021年にデビューした県産ミカンの新品种「にじゅうまる」が、今年2月に不正に栽培され、県外の百貨店で不正に販売されていた事案が発生しました。

このため、県では、今年6月30日に施行された「佐賀牛」や「佐賀海苔 有明海一番」等世界に誇る高品質な農林水産物ブランドや、「いちごさん」、「にじゅうまる」、「サガンスギ」といった佐賀の農林水産物の未来を担う貴重な知的財産を、県民みんなで守り、育てる気運をさらに高め、佐賀ならではの強みを生かした新たな知的財産を生み出す好循環が佐賀の地に深く根を張ることを目指して、「佐賀県知的財産を大切に、みんなで守り、育て、新たに生み出す条例」を制定しました。

条例では、知的財産の保護、活用及び創造に関する基本理念を定め、並びに県、事業者、県民、大学等及び市町の責務を明らかにしています。



条例施行日に、農林業に関する品種の育成者権及び商標権等知的財産権の侵害に対して迅速かつ適切に対応するため、佐賀県農林産物品種流通対策チーム（以下「佐賀県品種Gメン」という。）が設置されました。佐賀県品種Gメンの構成は、本庁関係課、農林の試験研究機関の担当係長が構成メンバーとしてなっており、佐賀県品種Gメンの役割は、知的財産の侵害に対する通報窓口を設置、通報内容の事実確認及び現地調査、通報があった農林産物の買取、品種特定のためのDNA分析などが業務となっています。

（林業課 造林間伐担当 下野 智昭）

待望の 「さかの木の建築 推進協議会」が 設立!



設立総会

木材利用促進法が改正され、木材利用の可能性が拡大!

令和3年6月「公共建築物における木材利用の促進に関する法律（H22）」が改正され、「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」が施行されました。建築物における木材利用促進の意義に「脱炭素社会の実現」が位置づけられたこと、また、木材利用促進の対象を公共建築物から「民間建築物を含む建築物一般」に拡大されました。

これにより、公共建築物だけでなく、これまで木材の利用が低位だった非住宅の建築物や中高層建築物を含め建築物全体に木材利用を促進していくことになりました。

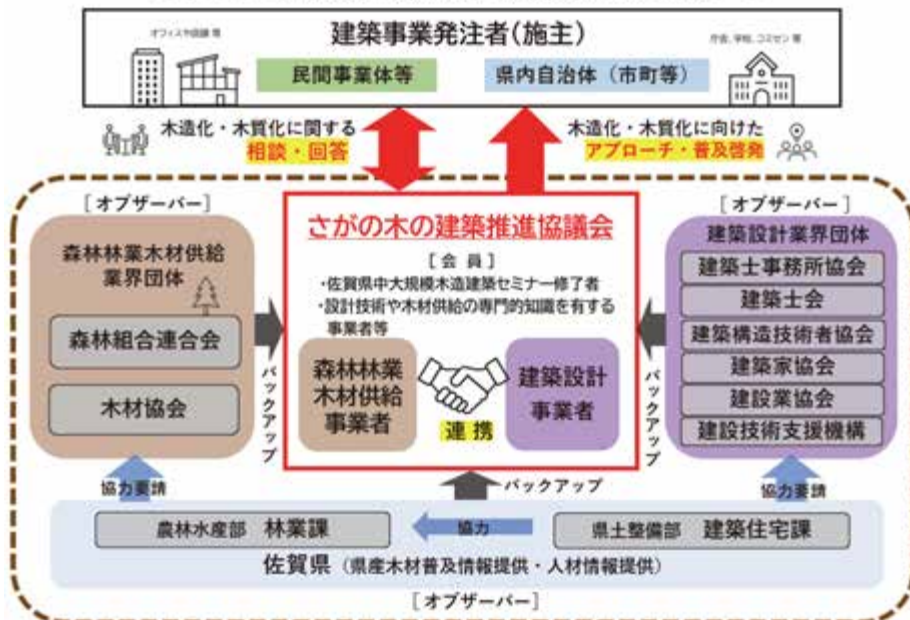
中大規模建築物の木造化・木質化を推進!

このような法改正を追い風として、県産木材の利用拡大の一翼を担うことを目的に、令和4年7月28日に武雄市朝日公民館にて「さかの木の建築推進協議会」の設立総会が開催されました。

協議会は、令和元年度から2年度にわたり開催された「佐賀県中大規模木造建築セミナー」を受講した建築士、木材供給者、木造建築物の設計技術や木材供給ノウハウに関する専門的な知識を有する個人や法人を会員とし、その活動をバックアップするオブザーバーによって構成され、会員が連携して非住宅建築物における木造化・木質化を推進することを目的とした団体です。

協議会の具体的な活動は「木造化・木質化の相談窓口」、「施主への木造化・木質化のアプローチ」、「会員のスキルアップ研修」、「建築物の木造化・木質化に向けた普及啓発」、「県産木材の利用拡大に関する調査・研究」です。初年度は、実現可能な相談窓口設置について検討することとし、来年度の相談窓口設置を目指しています。

「さかの木の建築推進協議会」と関係団体の連携イメージ



木造建築物は「第2の森林」

県内のスギ・ヒノキの人工林は成熟期を迎え、利用可能な森林資源が豊富です。

この先人たちが育て、残してくれた佐賀の豊かな山を、協議会の力を借りながら「伐って」、「使って」、「植えて」、「育てる」という森林資源の循環利用を一層推進し、県産木材をたくさん利用していただきたいと思っています。

豊かな山の恵みである県産木材をふんだんに使用した中大規模木造施設、例えば「木のビル」第1号が、早くさがん街にも建設されることを切に願っています。

(林業課 林産担当 宇藤 志保)

令和4年度 治山・林道コン クールを開催



治山工事部門 最優秀賞（知事賞）
施工者 株式会社扶桑エンジニアリング
施工箇所 礪ノ谷地区（唐津市）



林道工事部門 最優秀賞（知事賞）
施工者 株式会社有田建設
施工箇所 二里・下分線3工区（伊万里市）



林道維持管理部門 最優秀賞（知事賞）
管理者 鹿島市
路線名 多良岳横断線



林道木材使用工事部門 優秀賞
発注者 伊万里農林事務所
施工箇所 二里・下分線3工区（伊万里市）

佐賀県治山林道協会では、治山工事や林道工事における施工技術の向上、木材利用の推進、林道の適切な維持管理を推進することを目的として、毎年、本コンクールを開催されています。今年のコンクールは4部門で、昨年度に完成した工事を対象として、農林事務所の1次審査を経て推薦された12件を対象に2次審査を実施し、受賞者を決定しました。なお、それぞれの部門で最優秀賞に選定された場合は、全国コンクールに推薦されます。

1 治山工事部門（5件）最優秀賞 株式会社扶桑エンジニアリング

当地区は、狭隘な地形で地すべり性崩壊が発生しており、住宅及び道路の直上に位置し、施工地へのアクセス道等も狭小であるなど施工条件が困難であったが、施工管理や工程管理が優れており、仕上がりが良好で出来形及び品質管理の管理値は規格値に対して余裕があり、ばらつきが少なかったことなどが高く評価されました。

施工者	工事名	施工箇所	工事内容
株式会社飛鳥緑化建設	白木谷地区 復旧治山事業工事	三養基郡 基山町	床固工1個、水路工41.9m
株式会社富士建設	金立山地区 災害関連緊急治山事業工事	佐賀市	谷止工1個
株式会社扶桑エンジニアリング	礪ノ谷地区 溪流等県土保全緊急対策事業工事	唐津市	排土工2,089㎡、アンカー工31本、 集水井工1基
日本建設技術株式会社	穂波ノ尾地区 予防治山事業工事	西松浦郡 有田町	アンカー工19本
株式会社中山組	鳥海1号地区 溪流等県土保全緊急対策事業	武雄市	谷止工1個

2 林道維持管理部門（4件）最優秀賞 鹿島市

毎年除草作業を年2回、支障木除去・側溝整備を年1回実施されるとともに、林道の巡回点検を随時実施され、路面の状況把握や不法投棄の未然防止に努められていることが高く評価されました。

管理者	路線名	審査対象延長	幅員
鳥栖市	九千部山横断線	11,366m	5.0m
小城市	畑田～天川線	2,569m	4.0m
伊万里市	大川眉山線	8,461m	5.0m
鹿島市	多良岳横断線	16,710m	5.0m

3 林道工事部門（2件）最優秀賞 株式会社有田建設

法切勾配等の変更やL型擁壁などの施工内容の変化に的確に対応しながら適切に工程管理をされ、全体的な仕上がりが優れ、出来形、施工管理全体が優れていたことが高く評価されました。

施工者	工事名	施工箇所	工事内容
成和建设株式会社	あせび線 林業専用道整備事業工事	唐津市	新設240m（全幅員3.5m）、 路面工210m
株式会社有田建設	二里・下分線3工区 道整備交付金事業工事	伊万里市	新設591.8m（全幅員4.0m）、 舗装466m

4 林道木材使用工事部門（1件）優秀賞 伊万里農林事務所

発注者	工事名	施工箇所	木材使用料
伊万里農林事務所	二里・下分線3工区 道整備交付金事業工事	伊万里市	木製パネル伏工、丸太伏工、 簡易丸太柵 31.1㎡

今回のコンクールで審査した工事等は、他の工事等の模範となるものでした。今後も、当コンクールを通じて、治山・林道工事の関係者の技術向上、県産木材の利用推進、さらには、林道の適切な維持管理が図られることを期待しています。

（森林整備課 副課長 武田 経孝）

全国大会で種目別1位の好成績

林業技術及び安全作業意識の向上等を目的として今年5月に青森県で開催された第4回日本伐木チャンピオンシップ（JLC）において、太良町森林組合の坂口学さんと岩永大輔さんがそれぞれ種目別で1位の好成績を収められました。

当大会は伐倒競技、ソーチェン着脱競技、丸太合わせ輪切り競技、接地丸太輪切り競技、枝払い競技の5種目の正確さや競技時間、安全動作などが採点され、総合順位の上位者が世界大会に日本代表として選出されます。

お二人は惜しくも日本代表の座は逃したものの、日本中から集まった総勢97名の技術者が競い合う中で、坂口さんが接地丸太輪切り競技で、岩永さんが枝払い競技でそれぞれ1位を獲得されました。

お二人にお話を伺いました

まずは大会に出場された感想をお願いします。

（坂口）参加者は若い世代が本当に多いうえに、レベルが高いため、非常にいい刺激をもらえました。

（岩永）特に安全意識が高く、普段の仕事でも高い意識を持って取り組んでいることが伺えました。そういった若い世代が日本代表になっており、改めて安全意識の大切さを教えてもらった大会でした。

次に成績の感想をお願いします。

（坂口）第1種目の伐倒競技で思うような点数を取れず、出だして躓いてしまったため、気持ちを切り替えて第2種目からは攻めの姿勢で臨みました。それが接地丸太輪切り競技で大会新記録で1位といういい結果に繋がりました。

（岩永）決勝に進めなかった他県の選手達から「頑張れ」と声を掛けられ、力をもらいました。枝払い競技はこれまで一番の手応えを感じる出来で1位をとることができました。今後の抱負をお願いします。

（坂口）全国一位。そして世界大会の伐倒競技で満点を目指します。

（岩永）佐賀から世界に。坂口さんと2人で日本代表になりたいですね。

最後に、若い林業従事者やこれから林業を始める方にメッセージをお願いします。

（坂口）安全が第一。毎日コツコツ、ケガしないようにやっていきましょう。

（岩永）林業は大変ですが、やりがいがある仕事なので、一緒に楽しくやっていけたらと思います。



メダルを胸に（左が岩永大輔さん、右が坂口学さん）



接地丸太輪切り競技に臨む坂口さん



枝払い競技に臨む岩永さん

これからの林業を支える人づくり

インタビューを通して、お二人の安全と技術向上に対する強い思いが改めて感じられました。また、林業は大変な仕事だからこそ、仲間と一緒に、時には競技を通して他の事業者の方とも交流を深め、楽しくやっていくことの大切さを教えていただきました。

県では今年度から「さが林業アカデミー」を開講し、来年度には「SAGA 伐木チャンピオンシップ 2023」の開催を予定するなど、林業の担い手の確保や育成、イメージアップに力を入れており、佐賀の山を守り育てるための「さがの林業再生プロジェクト」を進めていきます。そして、近い将来に佐賀県の林業従事者が世界大会へ出場する日が来ることを期待しています。

（林業課 林産担当 池田 浩章）

新しい木造の公民館

公共建築物への木材利用促進を取り決めた「佐賀県公共建築物木材利用促進方針（H23.12.14 策定）」に即し、県内の各市町で同様の方針が策定されて、約 10 年が過ぎました。

各地で木造施設が見られるようになったなか、令和 4 年 2 月に武雄市朝日町に新しく木造の公民館が新築されました。また、今回の建築に伴い武雄市で初めてとなる新しい組織（取り組み）が出来たので併せて御紹介します。



朝日公民館の正面



中庭から見た全景

明るく、シンプル、機能的！

公民館を訪れての第一印象は「明るく、シンプル、機能的！」でした。大・小・和の会議室と調理実習室、武雄市図書館と連携した図書コーナーが設けられ、内装材や建具に木材がふんだんに使われおり、柔らかな光の反射で室内は明るくさらに木材の香りでいっぱいでした。

建物を L 字型にして芝生広場を囲み、屋外イベントなどより近くで楽しめる工夫が感じられました。大会議室は、屋根構造材（新技術「大断面 BP 材」）が見えるようにしたことで木材の力強さが感じられ、そして、大きい窓からさわやかな風が吹き抜け、田園風景と柏岳を望むことができる心安らぐ空間になっています。



明るく開放的な大会議室

木造公共建築物を建築するにあたり問題になりやすいのが「規格や産地を指定された品質の揃った大量の木材を納期までに調達する」ことです。この問題を解決すべく、朝日公民館建築をきっかけに「武雄地区木材安定供給協議会」が設立されました。

この協議会は、武雄市杵島郡木材同業組合と武雄杵島森林組合と株式会社伊万里木材市場（事務局）が参画し、武雄市から建設予定の木造公共施設に関する情報提供を受け、設計段階から木構造（特殊工法含む）へのアドバイス、武雄市産木材及び佐賀県産木材の調達、製材品（JAS 材含む）の調達・納入管理までを一括で担う組織です。

協議会の事務局を担っている株式会社伊万里木材市場の吉村氏は、「初めての取り組みで、ウッドショックの最中で不安もありましたが、事前に情報をいただき早めに動くことができたので、思いのほかスムーズに納入することができました。ただ、JAS 材を揃えるのは少し苦労しました。しかし、この協議会が施主様にも地域の木材業界にとっても WinWin の関係になると信じ、継続、拡大していきたいです。」とされていました。

木材利用の広がりを期待

木材の流通は複雑で手間も掛かります。手間を一元化する調整役がいることで、木材はもっと使いやすくなると思います。

この素敵な朝日公民館を一度訪れて触れてみて、木造の良さを実感してください。

●武雄市朝日公民館の概要

住所：武雄市朝日町大字甘久 4295 電話：0954-22-3872

構造・建築面積：木造平屋建 725.57 m²

木材使用量：179.202 m³（うち県産木材 51.329 m³）

建築費（県補助金）：347,629 千円（87,831 千円）

補助金名：佐賀県林業・木材産業成長産業化促進対策交付金

（杵藤農林事務所 林務課 普及担当 小杉 茂）

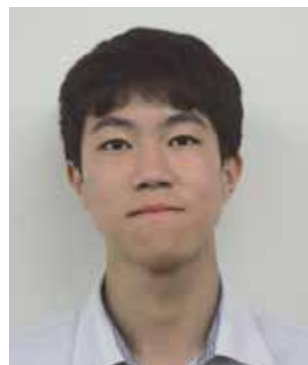


令和4年6月17日に開催された「佐賀県学校農業クラブ連盟発表大会」で貴重な意見発表がされましたので紹介します。

「佐賀県の森を守りたい」 伊万里実業高校 森林環境科3年 喜多 翼

「ウオン、ウオン、ウオ〜ン」と、鳴り響く爆音。それは、木を伐採するチェーンソーの音でした。伊万里実業高校農林キャンパス、森林環境科に入学した私は、初めての演習林実習で「すごい迫力で」大木が伐採されている様子を見学しました。

私が学ぶ森林環境科では、2ヶ月に1回の割合で腰岳演習林に行きます。そこでは季節に応じて、除伐や下刈り等の実習を行い、森林管理の技術や知識を体験的に学んでいます。下刈りは、植樹した樹木の周辺の雑草や低木を刈っていき、間伐は樹木の生長が過密にならないよう、間隔を空けるために成長の良い木を残し、他の木を倒していく作業です。どちらも目的の樹木を真っ直ぐ、健全に育てるために必要な大切な作業ですが、林業の中で一番きつく、大変な仕事です。しかし、作業を終えた後、薄暗かった林内に光が差し込んだり、下草を刈ったことで植樹した木がハッキリとわかる状態になった様子を見ると、作業を終えた達成感と同時に、やはり大事なことだと実感します。これらの作業により、良い木が育つ事で、木材としての価値が高まるだけでなく、土砂崩れ等を防いでくれる健全な森づくりに繋がります。



森は森林の持つ多面的機能を通じて、環境保全に大きな役割を果たしています。ところが、私は専門教科の授業や校外研修を通じて、森林や林業について学んでいくうちに、現在の森林管理には様々な課題があることを知りました。それは、佐賀県の人工林はこれまで長い年月をかけて先人たちの手によって植え、育てられてきましたが、林業従事者の高齢化や担い手不足による、手入れのいき届かない森林が多くなっていることです。

専門教科を学ぶにつれ、もっといろんな事に挑戦し、知識や経験を高めたいと思った私は、「聞き書き甲子園」に参加しました。そして、長崎県大村市の漁業の名人川原秀行さんと語り合うことができました。川原さんの話を聞いたことは、私にとって大変貴重で、重要な経験になりました。なぜなら、豊かな山の栄養は川へ注ぎ、それから海へとつながっているということを知ることが出来たからです。そして、その大切なつながりを守るのは「人」だと言うことです。

川原さんは、現在73歳の大ベテランの漁師さんです。底曳きによる漁を中心とし、ウニ漁、その他シャコ、エビ、アナゴ等を獲っていらっしゃいます。まさに、大村湾を知り尽くした人で、誇りを持って漁師をいらっしゃいました。川原さんは、話の中で「森の存在は、海にとって大きな役割を果たしている。」「高齢者ばかりで、若手後継者がいなくて困っている。」等話をされました。この時、学校で学んでいる森林や林業の問題点と共通していることに気づきました。

佐賀県は、スギの新品種「サガンスギ」を約60年かけて開発しました。成長が早く、木材としての強度があり、その上花粉の量も少ない、というまさに三拍子揃ったスギで、佐賀県の林業活性化の旗頭になるものです。そのスギを先輩方が今年1月に、本校の腰岳演習林に試験林として植樹し、県林業試験場と協力して生育調査に取り組んでいます。

また、現在ドローンを活用した森林管理について研究しています。ドローンを応用し、詳細な森林情報の取得や作業の効率化を図り、作業の時間短縮や最先端技術を利用した、スマート林業等に取り組めなにか探求しています。実際に、高性能林業機械の研修でその機械を操作した時、これまで人の力で苦労していた作業が、こんなに簡単に採材ができるのかと驚きました。このような機械操作をマスターすることで、スマートな林業経営につながり、若い人が林業を見直すきっかけになるのではと実感しました。

私は、様々な課題を抱えている森林分野に対して、人とつながり、時代に即した方法で、解決の手だてがとれる佐賀県の林業技術者になりたいと思っています。近年、佐賀県では自然災害が多く発生しています。これまで述べたように、森林は土砂災害等災害を防止し、環境保全など重要な役割を果たしています。森林を減少させないためには、植林から伐採まで、しっかりした管理を行い、育てた樹木を有効利用することが何より大切だと思っています。

私は、様々な問題と課題を抱える林業分野に敢然と立ち向かえる林業技術者となり、佐賀県の森林管理から、日本の、地球の環境保全へと未来に繋げていきたいと思っています。

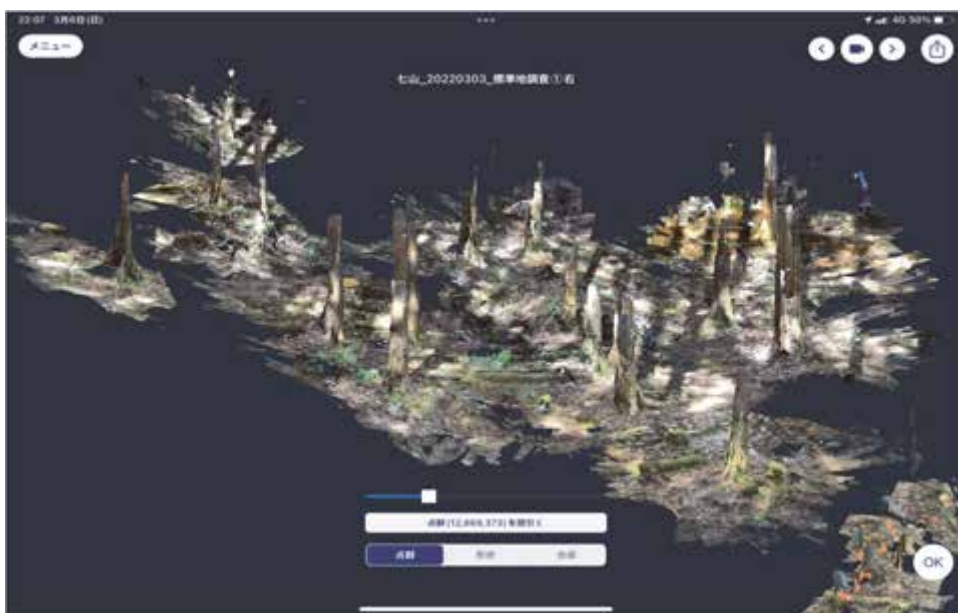


測量器具はスマホ 1 台

今回紹介するアプリは、iPhone/iPad 1 台で調査・測量・野帳作成・データ抽出が完結するアプリケーションで現場での作業や集計などの内業において、時短・労働コストの削減など業務の効率化が期待できます。アプリでは、主に①胸高直径・樹高の測定（標準地調査・毎木調査）②プロット設定③断面測量（横断・縦断における延長、勾配）④長さの測定（素材丸太の長さ・道の幅など）⑤材量検収⑥面積測量（周囲測量）等が可能です。調査機能は満載ですが林業未経験の方やデジタル機器への苦手意識がある方でも、単純作業なので使いやすいと感じました。



【アプリの 3D スキャン機能・治山ダム】 構造物の把握に優れている

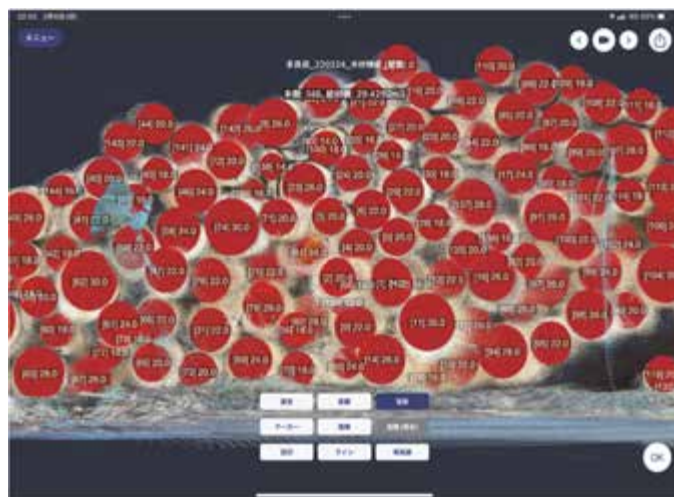


【森林調査の結果】データが野帳で抽出でき、林内の様子が視覚化される

アプリの特徴

アプリでは、iPhone/iPad 1 台で数人の労働力がカバーでき、データの共有をすることで即時に事業体間でも現地の把握が可能です。また、アプリと GNSS 受信機をセットで使うことで従来品の高性能 GPS に劣らない位置取得精度になります。さらに、3D スキャンを行うことで面積の計測ができるようになり、実際に野帳に記入し写真で記録するよりも正確で立体的なデータを取得することができ、現場の視覚化に長けています。この記事を読んでより多くの方に興味を持ってもらえればと思います。

（林業課 県営林経営・総務担当 望岡 佑佳里・池園 騎士）



【材量検収】現場に積まれた断面から自動的に直径がスキャンされ、長さを入力することで材積が計算できる



岩松小学校 5 年生を対象に森林教室を開催

森と川のつながりについて講和

令和 4 年 7 月 1 2 日（火曜日）、小城市立岩松小学校 5 年生 25 名を対象に、森川海のつながりや森林の大切さを学ぶ「森川海人っ教室」を開催しました。この教室では、「森川海はひとつという思いを人が未来へつなぐ」という思いのもと、森川海のつながりや管理の重要性等について、県民の皆様幅広くお知らせするとともに、保全活動等の行動促進につなげていく「森川海人っプロジェクト」の一環として取り組んでいます。

森川海人っ教室は、1 限目にプレゼンテーション資料を使い、

- (1) 地球の誕生や身近な川（祇園川）の災害
- (2) 森と川のつながり
- (3) 森林の役割や林業の仕事 などについて、クイズ形式にして説明を行いました。



森川海人くんが教室に登場してくれました



好きな材料を手に取り夢中で製作に取り組む子どもたち

流木や木の実を使ってクラフトづくり

2 限目は、流木や松ぼっくりを使い、子ども達の自由な発想で工作をしてもらいました。

子ども達は、流れ木や松ぼっくりのほか、どんぐり等の木の実や落ち葉など好きな材料もりかわかいとを取り、様々なアイデアで世界に一つしかない素敵な作品ができました。また、教室には、森川海人っプロジェクトのキャプテン「森川海人くん」が参加し、プロジェクトの PR やお手伝いに来てくれました。



素敵な作品ができあがりしました



森川海人くんと集合写真

子ども達は、楽しみながら「森と川のつながり」や「森の大切さ」などを学ぶことができました。

(佐賀中部農林事務所 林務課 普及担当 若宮 征喜)



“新種ヨコバイ”によるサカキ被害

県内のサカキ栽培

サカキ *Cleyera japonica* は、モッコク科サカキ属の常緑広葉樹であり、古くから神社や神棚に供える木として利用されています。主に本州南部や四国、九州など、比較的温暖な地域に分布し、西日本各地を中心に多く栽培されています。本県においてもヒノキ林床を活用し、サカキ栽培に取り組まれている地域があり、生産されたサカキは近隣の花市場などに出荷されています。



ヒノキ林床で栽培されているサカキ

葉を白く変色させる“新種ヨコバイ”

県内のサカキ栽培地において、平成 28 年頃からサカキの成葉の表面に原因不明の白斑が発生し始め、次第にその被害が拡大しました。平成 30 年に現地栽培地で発生している害虫を捕獲し、九州大学へ確認を依頼したところ、新種のヨコバイであるサカキブチヒメヨコバイと判明しました。さらに九州大学の研究によって、サカキの白斑被害はこのサカキブチヒメヨコバイによる吸汁被害ということが明らかになりました。被害が確認されて以降、年々白斑被害は深刻化しており、特に地面からの高さが 1.5 m 以下では被害が顕著に現われています。この被害によりサカキの商品価値が著しく低下することから防除方法の確立が課題となっているところですが、サカキブチヒメヨコバイの生態については、解明されていない点が多いため、生態調査等が必要となっています。



ほとんど吸汁被害を受けていないサカキ（青テープから先が新葉）



枝元から重度の吸汁被害を受け、白斑化したサカキ

“新種ヨコバイ”の防除方法と生態調査

当試験場では、農林事務所、佐賀大学農学部と協力し、サカキの被害状況を把握するため、前年芽吹いた 2 年葉と今年芽吹いた新葉の白斑被害率調査を実施しています。一般的に、昆虫（幼虫・成虫）は柔らかい新葉を好むと思われるのですが、サカキブチヒメヨコバイは新葉よりも硬化した 2 年葉以前の葉を好む習性があり、新葉についても 6～7 月になり硬化が始まると被害を受け始めることから、サカキの枝元から枝先に向かって被害が進行していく傾向が分かっています。

また、白斑被害の原因となっているサカキブチヒメヨコバイの生態解明のため、黄色粘着シートをサカキ栽培地に設置し、成虫捕獲数をバロメータとして年間発生状況の調査を進めており、発生時期を推測することで、効率の良い薬剤散布に繋がってほしいと考えています。

サカキブチヒメヨコバイは九州では佐賀県だけでなく、熊本県・鹿児島県等でも被害発生が確認されていることから、分布域を拡大させている可能性が考えられます。お近くで栽培されているサカキが、このような白斑被害を受けており、被害確認が必要な場合は林業試験場までお問合せください。

（林業試験場 研究開発担当 森口 辰也）

林務関係職員の人事異動（令和4年4月1日付け）

<農林水産部>

○林業課

副課長 近藤 真奈美（佐賀中部農林 係長）
 [企画振興担当]
 係長 夏井 雄一郎（森林整備課 係長）
 技師 佐藤 光（新規採用）
 [県営林経営・総務担当]
 技師 池園 騎士（新規採用）
 [造林間伐担当]
 主査 勝山 ゆかり（唐津農林 主査）
 [林産担当]
 係長 宇藤 志保（林業課 主任主査）

○森林整備課

副課長 光武 亨剛（さが創成推進課 係長）
 [森林管理担当]
 係長 白藤 季光（林業課 係長）
 [治山担当]
 主任主査 立丸 雄一郎（佐賀中部農林 主任主査）
 主査 高柳 直子（佐賀東高校 主事）
 [森林保全担当]
 主査 鶴田 学（杵藤農林 主査）
 [森川海人プロジェクト推進担当]
 係長 園田 恵（こども未来課 主査）
 主査 横田 千慧（唐津農林 主査）
 主事 池田 拓人（課内異動）
 主事 大野 尚多朗（新規採用）

○佐賀中部農林事務所

[普及担当]
 係長 若宮 征喜（森林整備課 係長）
 [治山担当]
 主任主査 田中 千佳子（東部農林 主任主査）
 技師 家入 皇仁（伊万里農林 技師）
 [森林管理担当]
 技師 岩永 太陽（森林整備課 技師）
 技師 野口 莉那（新規採用）

○東部農林事務所

林務課長 松尾 淳也（林業試験場 副場長）
 技師 鎌倉 悠輝（建設技術課 技師）

○唐津農林事務所

林務課長 北川 恭浩（林業課 副課長）
 [普及担当]
 主査 中村 克也（伊万里農林 技師）
 [森林管理担当]
 主任主査 山下 史朗（佐賀中部農林 主任主査）
 ○伊万里農林事務所
 [普及・森林管理担当]
 主査 内山 和彦（杵藤農林 主査）
 技師 松本 亮太（唐津農林 技師）
 [治山担当]
 技師 深水 翔太（佐賀中部農林 技師）
 技師 松本 龍二（新規採用）

○杵藤農林事務所

[普及担当]
 係長 小杉 茂（林業試験場 専門技術員）
 主査 横田 晃宏（林業課 主査）
 [治山担当]
 主任主査 山下 実（森林整備課 主任主査）

○林業試験場

副場長 島内 稔（唐津農林 林務課長）
 総務課長 向井 準（総務事務センター 副センター長）
 [研究開発担当]
 技師 柴田 晴矢（新規採用）
 [普及指導課]
 専門技術員 矢野 博典（林業課 係長）
 専門技術員 川棚 健雄（杵藤農林 係長）

<県土整備部>

○入札・検査センター

[資格審査担当]
 主査 中島 希（伊万里農林 主査）

○建設・技術課

[技術管理担当]
 主任主査 権藤 健太（入札・検査センター 主任主査）

イベント情報（参加者募集）

● 1日体験イベント「小さな森林の探検隊」

（日 時）令和4年10月30日（日）※雨天時は室内で開催
 午前の部 10:00～12:00、午後の部 13:00～15:00

（場 所）林業試験場内「平成子ども記念の森」

（内 容）森林・林業・緑化について楽しく学べる体験イベント

①森の観察（ビンゴゲーム）、②木の実の工作

（定 員）40組（県内在住の子どもと保護者）

（参加申し込み期間）令和4年10月3日（月）～10月21日（金）

※事前申し込みが必要です

（申し込み方法）下記連絡先にお電話ください。ただし、定員に達した場合は、申し込み期間内であっても受付を締め切らせていただきます。

（連絡先）佐賀県林業試験場 普及指導課

電話：0952-62-0054 / FAX：0952-51-2013

E-mail: ringyoushiken@pref.saga.lg.jp

（林業試験場 普及指導課 宮崎 潤二）



昨年の小さな森林の探検隊の様子

（表紙の紹介）各地区で高校生向けの高性能林業機械の体験研修等が実施されています。林業従事者が増えることを願っています。（編集後記）今回から編集長になりました。無事発行できました。これから皆さんに最新の情報をお届けしてまいります。（T.K）

Follow us!



「みんなで育てよう!さかの森林」
 Facebook公式ページはこちら!
 気になる方は「いいね!」しよう



http://www.facebook.com/saganomori

さかのよか木を応援する

「よかウッド」公式サイトはこちら!



http://www.yoka-wood.jp

編集・発行

令和4年10月3日発行
 〒840-0212 佐賀市大和町大字池上 3408 番地
 佐賀県林業試験場・佐賀県林業改良普及協会
 TEL：0952-62-0054

※この冊子は、「佐賀の森の木になる紙」を使用しています。

